

# ヤマザキビスケット株式会社

## 会社概要

- 本社所在地 〒163-0540 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル40F
- 設立 1970年10月
- 資本金 16億円
- 事業内容 ビスケット、スナック、チョコレート等の菓子製造販売
- 代表者 代表取締役社長 飯島茂彰
- 株主 山崎製パン株式会社(80%)、双日株式会社(20%)
- 従業員数 985名(2025年1月現在)

## 所在地

- 本社 〒163-0540 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル40F  
TEL(03)3344-6211
- 古河事業所 〒306-0206 茨城県古河市丘里7  
TEL(0280)98-2111
- 札幌営業所 〒060-0807 北海道札幌市北区北7条西7-1-30 RICH7・7BLDG8F  
TEL(011)737-5600
- 東北営業所 〒983-0043 宮城県仙台市宮城野区萩野町1-11-1 萩野町Mビル2F  
TEL(022)232-4652
- 北関東営業所 〒306-0206 茨城県古河市丘里7(古河事業所内)  
TEL(0280)98-2611
- 東京東営業所 〒279-0042 千葉県浦安市東野2-13-32  
TEL(047)351-7105
- 東京西営業所 〒179-0075 東京都練馬区高松4-17-3  
TEL(03)3926-3141
- 横浜営業所 〒242-0021 神奈川県大和市中央7-16-20 パティオ1F  
TEL(046)262-2810
- 信越営業所 〒380-0905 長野県長野市鶴賀七瀬南部545-1 ラトナ東口ビル205  
TEL(026)227-8346
- 名古屋営業所 〒452-0822 愛知県名古屋市区中小田井5-153  
TEL(052)501-1531
- 金沢営業所 〒920-0051 石川県金沢市二口町ニ53-1 金沢フィットビル1F  
TEL(076)264-3271
- 大阪営業所 〒567-0817 大阪府茨木市別院町1-21 リアライズ茨木駅前ビル2F  
TEL(072)631-2455
- 広島営業所 〒731-0123 広島県広島市安佐南区古市2-2-25 FKビル302  
TEL(082)875-6311
- 高松営業所 〒761-8071 香川県高松市伏石町2158-10  
TEL(087)865-1028
- 福岡営業所 〒816-0802 福岡県春日市春日原北町2-7-3 ヴィファイブ河波2F  
TEL(092)501-4531
- 鹿児島営業所 〒890-0056 鹿児島県鹿児島市下荒田3-21-2 前原ビル1F  
TEL(099)257-1128
- 沖縄営業所 〒902-0067 沖縄県那覇市安里2-6-24 リファイン安里511  
TEL(098)860-1454

価値ある製品の提供を目指して



ヤマザキビスケット株式会社

# 変わらぬ理念で、変えていく未来。



ヤマザキビスケット株式会社  
代表取締役社長

飯島 茂彰

## 企業理念

### 価値ある製品の提供を目指して

弊社は、2016年9月より商号を「ヤマザキビスケット株式会社」に変更し、新たに出発いたしました。

1970年の設立以来、「価値ある製品の提供」をモットーに、真摯に社業に取り組み、「チップスター」、「ピコラ」、「エアリアル」などのロングセラー製品を市場に投入してまいりました。

ヤマザキビスケットは、これらの製品に続き、「ルヴァンクラッカー（プライム・全粒粉・クラシカル）」や「ノアール」をはじめ魅力ある製品を提供し続けることで、今後も、新しい市場の創造、消費者の需要喚起を図ってまいります。

時の流れの中でかたちづくりられた信頼。それこそが、私たちの誇りであり財産です。基本に忠実に、お客様に誠実に、私たちは安全・安心で高品質な製品をつくり続けてまいります。食品メーカーの私たちに、信頼への近道はありません。ひたすらまっすぐに未来を見据えて、価値ある製品の一つひとつつくり続けていくことだけが、私たちの使命であると信じています。

設立から半世紀。これからも弊社が長く大切にしてきた企業理念が変わることはありません。そして、環境への配慮、少子高齢化や健康志向など社会の変化に柔軟に対応し、常に食のシーンに新しい風を吹き込んでまいります。

## ブランドマークに込めた思い



ヤマザキビスケット株式会社  
YAMAZAKI BISCUITS Co.,LTD.

ブランドマークは、赤色の楕円の中に「YAMAZAKI BISCUITS COMPANY」の頭文字からなる「YBC」とし、シンプルな形状は、菓子の身近なイメージや、温かみ、楽しさを表現しています。



# フロントランナーから、イノベーションランナーへ。

設立当初より、常に「安全・安心で高品質な製品づくり」を心がけ、「新しい市場の創造、消費者の需要喚起」を目指し、  
他社に先駆けた革新的な製品を発売することで、菓子業界をリードしてまいりました。  
お客様のニーズが多様化する今、あらためて、基本に忠実に、  
真の豊かさや新しい食文化のあり方を創造していくことが、私たちの使命です。



1970年

1970年 10月  
ヤマザキ・ナビスコ株式会社設立  
(資本金8億円)



1971年 2月  
「ラングドシャ」発売

1972年 2月  
「バタークッキー」発売

1972年 6月  
「エントリー」発売

1973年 6月  
「レモンパック」発売

1973年 9月  
資本金16億円に増資

1974年 5月  
本社事務所新宿住友ビルに移転

1976年 1月  
「チップスター」発売 ※1

1976年 6月  
「ピコラ」発売 ※2

1979年 8月  
本社事務所新宿野村ビルに移転

1980年

1982年 5月  
「プチコーン」発売

1985年 8月  
「ポテトチップ」発売

1988年 7月  
山崎製パン株式会社ならびにニチメン株式会社(現双日(株))がR.J.Rナビスコ社所有のヤマザキ・ナビスコ株式を取得

1988年 8月  
「レモンパック」をスタンドパックに  
リニューアル

## ※1 まったく新しい ポテトスナックの登場

弊社のロングセラー製品の代表格である「チップスター」は、技術開発の末に誕生した努力の賜物です。おいしさに定評のあったアイダホポテトをフレークにして使用し、自然の風味を十分に実現しました。1枚1枚の大きさと形がきれいに揃っている、油分が少なく手がべたつかない、円筒形という斬新な容器の採用など、発売当初より大きな反響と圧倒的な支持を集めました。



## ※2 かわいくておいしい クッキー「ピコラ」発売

それまで日本になかった画期的な技術で生まれた「ピコラ」。筒状のクッキーの中にチョコレートクリームをくるくる巻きつけた斬新なアイデアと、"かじって、おいしくて、たのしくて"というキャッチコピーが、お客様の心をつかみました。早口競争をするTVCでも、当時のお茶の間で話題になりました。



1990年

1992年 9月  
Jリーグヤマザキナビスコカップ  
スタート

1992年 10月  
チップスターの丸筒を全面紙製化するとともに自社生産に切り替える

1993年 1月  
「チップスター」  
食品産業技術功労賞・商品部門受賞

## 環境保護への取り組み



1976年、日本初の成型ポテトチップとして発売された「チップスター」。1枚1枚がきれいに整えられた美しい形状と、円筒形パッケージが話題となりました。1992年には、筒・フタ・底などに一部使用していたアルミ、プラスチックを廃止し、製品パッケージを自社で加工生産することで、オール紙製パッケージ化を実現。おいしさだけでなく、地球環境保全への配慮とともに、ゴミ分別が必要なくなったことから、お客様にご好評をいただきました。また、2010年11月、一定以上の製品の輸送を海上輸送にシフトしたことによるCO2削減への貢献が認められ、エコシップマークの認定を取得しました。地球に優しく、お客様に優しく。今後もヤマザキビスケットは環境配慮に努めてまいります。

2000年

2000年 9月  
「チップスター」(Lサイズ)リニューアル  
金のチップスターシリーズ発売

2001年 11月  
「チップスター」(Sサイズ)を丸筒タイプ  
にリニューアル

2004年 11月  
「チップスター」食品産業技術功労賞・  
マーケティング部門受賞

2005年 4月  
アイスボックス製法による「ピーカン  
レーズンクッキー」、「バタークッキー」、  
「チョコチップクッキー」発売

2007年 6月  
「黒飴」、「ミントミントキャンデー」が  
宇宙日本食に認定される  
(2024年1月 認証辞退)

2009年 8月  
「エアリアル」発売

2010年

2010年 11月  
エコシップマーク認定取得

2010年 12月  
古河事業所 AIB全棟認証

## AIB=American Institute of Baking

製パン・製粉技術者の育成のために設立された機関で、食品安全衛生管理システムの強化を支援することを目的としています。ヤマザキビスケットは、お客様に危害を与える恐れを徹底的に排除するために、「AIB国際検査統合基準」に取り組み、さらなる食品安全衛生管理の強化に努めています。

2013年 3月  
Jリーグヤマザキナビスコカップが  
「同一スポンサーによる世界最長の  
カップ戦」としてギネス世界記録に認定



※発売当時のパッケージ

2016年

2016年 9月  
ヤマザキビスケット株式会社に商号変更



ヤマザキビスケット株式会社  
YAMAZAKI BISCUITS Co.,LTD.

2016年 9月  
「ルヴァン」発売



2017年 2月  
「ルヴァン」食品ヒット大賞優秀ヒット賞受賞

2017年 12月  
「ルヴァンプライムスナック」、  
「ルヴァンクラシカル」、「ノアール」発売

2019年 2月  
「ノアールシリーズ」食品ヒット大賞優秀ヒット賞受賞

2020年 10月  
設立50周年を迎える

2020年 11月  
FSSC 22000認証取得

2022年 3月  
「ルヴァン全粒粉クラッカー」発売

2022年 11月  
「プレミアムチップスター海老 しお味」発売

# 伝統と革新で食文化を豊かに。

## チップスター

成型ポテトチップのパイオニア！飽きのこない伝統のおいしさ

日本初の成型ポテトチップ。1976年の登場以来、40年以上にわたって、国民的ポテトチップとして愛されてきました。余計なものを加えないシンプルな味わいと、きれいにカールした楕円形の形状は今も昔も変わらない魅力。赤いパッケージでおなじみの「うすしお味」はもちろん、「コンソメ味」「のりしお味」も皆様からご好評をいただいています。



ユニバーサルデザインを採用

2016年、発売40周年を迎えたチップスターのパッケージをリニューアル。紙筒をつぶしやすくするために、Lサイズ、Sサイズ全品の紙筒底面にミシン目（切れ目）を施した「ユニバーサルデザイン」を採用しました。

※特許第6712467号  
※意匠登録第1557185号



2018年グッドデザイン・ロングライフデザイン賞受賞

## プレミアムチップスター海老

甘えびの旨みが凝縮された、  
噛むほどに味わい深い  
プレミアムなチップスター



## ルヴァンクラッカー

毎日の生活にクラッカーを。  
朝も昼も夜だって、あなたとともにルヴァンクラッカー



### プライム

こだわりは、開発を重ねてたどり着いた、最初の一口のおいしさ。サクサクと心地良い食感と口いっぱいに広がる香ばしさを お楽しみください。

### 全粒粉

素材と健康を意識し小麦全粒粉を使用した、香ばしさと豊かな味わいが特徴のクラッカーです。

### クラシカル

小麦本来の素材の味と発酵の風味が活きるプレーンなおいしさ。口溶けもよく、食べやすいサイズの上品なクラッカーに仕上がりました。



## エアリアル

サクッと香ばしい、独自製法でつくられた  
4層構造の新食感コーンスナック



## ノアール

ココアの香りとバニラの豊かな風味が深く、  
リッチに響きあう



## ピコラ

サクサクロールクッキーと  
クリームの組み合わせ



## YBCスタンドパックシリーズ

独自の技術で、サクサクの食感が  
特徴のサンドシリーズ



## スイートシリーズ

変わらぬおいしさをお届けするエントリー、バタークッキー、ラングドシャ



# 世代を超えて、愛される製品づくり。

ヤマザキビスケットの使命は、単にその瞬間の流行を追い求めるのではなく、長く愛される製品をお届けすることにあると考えています。市場ニーズは刻々と変化しますが、お客様が真に求める“価値ある製品”の開発に、誠心誠意取り組んでまいります。

## 新製品開発プロセス

1

### アイデア・コンセプト開発



#### 価値ある製品の開発が始まります。

ヤマザキビスケットの新製品開発は、自社がもつ技術やアイデアとお客様の声などの市場ニーズを組み合わせ、コンセプトを検討することから始まります。また、グループ会社の技術を活かした新製品開発にも力を入れ、これまでない価値ある製品を生み出す努力をしています。

新製品開発は、マーケティングおよび開発部門が中心となり進めますが、「新製品提案」という制度があり、他部門の社員からも製品の開発や改良に関するアイデアを募っています。また、古河事業所の製造部門各課では、少人数のプロジェクトチームを結成し、担当する製造ラインを活用した新製品を考案する取り組みを行っています。

2

### 試作・評価



#### 手作業で試行錯誤を繰り返します。

できるだけ多くのアイデアを収集し、絞り込みを行うことで、製品のネーミングや特徴、ターゲット層や食シーンなど、製品のコンセプトを具体化します。その後、開発担当者の地道な手作業により試作品を作ります。

試作が一度で終わることはありません。定期的開催される新製品会議にて、製品コンセプトや試作品に対する評価を行い、お客様に選んでいただき、喜んでいただける製品となるよう、改良を重ねます。新製品会議には、営業部門の社員も参加し、多角的視点をもって議論を行います。

3

### ラインテスト



#### 最高品質を追求します。

新製品の方向性が決定した後、実際の製造ラインにおいて、既存製品の生産の合間にラインテストを行います。ラインテストにはエンジニアも加わり、既存設備の改良や部品交換、新規導入を検討、計画し、高品質を実現するための製造ラインを完成させます。

実際の製造ラインで大量生産を試みると、試作品と同等の品質にならないことがあります。製品規格の微修正や製造設備の一部改良、火力調整などを行い、求める品質で安定的に生産するために、ラインテストを繰り返します。

4

### パッケージ検討・見本生産



#### デザインや形態を検討します。

パッケージデザインや包装形態は、開発部門と広告宣伝部門、そして営業部門も加わり検討を重ねます。この段階で重要なのは、製品の特徴を訴求するとともに、食シーンに合わせることで、小売店の売り場における展開を想定することです。

パッケージを含む製品規格が確定した後、製品見本の生産を行います。この製品見本を営業部門が取引先との商談で使用します。試食していただくことで出た意見や感想は、開発部門や製造部門にフィードバックし、次の製品開発へ活かします。

新製品の生産・発売・育成

市場シェアの拡大を目指します

# 品質へのこだわり。

ヤマザキビスケットは、これまででも、これからも、決して妥協することなく品質にこだわり続けます。

お客様の笑顔と「おいしい」という一言のために価値ある製品を提供する——。

私たちは、そのために確かな技術を磨き、

さらに安全・安心で高品質な製品づくりを目指します。

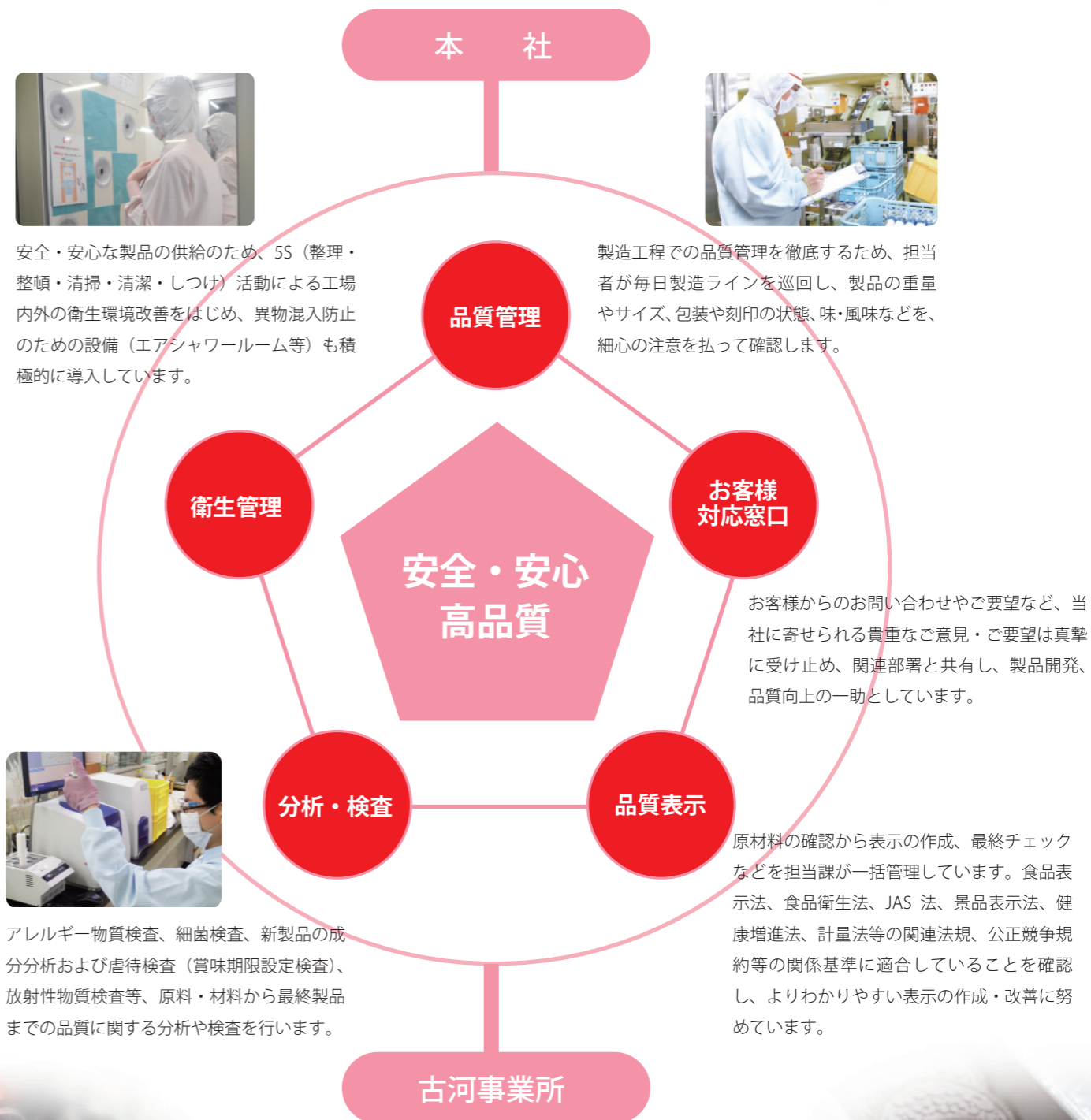


## 古河事業所

茨城県古河市の工業団地の一角に構える古河事業所。ヤマザキビスケットの製品はすべてここで生産され、全国のお客様へと届けられます。安全・安心で高品質な製品を、安定的に生産するための取り組みが、ヤマザキビスケットの「価値ある製品を提供する」という理念を実現しています。高品質な製品づくりを支えるのは、古河事業所に勤務する社員たち。一人ひとりの技術や工夫、そして製品づくりへの想いが、そのまま製品の品質を左右します。そのため、ヤマザキビスケットでは人材育成に注力し、充実した教育体制を整えています。

## 本社と古河事業所が連携し 食品安全衛生管理に努めています

ヤマザキビスケットは、本社に専門部署、その直轄組織を古河事業所に設置することにより、食品安全衛生管理に万全を期しています。



# お客様と製品をつなぐ。

お客様から信頼していただくには、市場での誠実な販売活動だけでなく、ヤマザキビスケットの姿勢をしっかりと伝える活動も重要です。それらの一つひとつが、信頼できる食品メーカーとしてのイメージを定着させるとともに、新たな需要創造や市場の開拓につながっています。

## TVCM

製品づくりに対する誠実な姿勢を伝えるために、「価値ある製品の提供」を目指す堅実なイメージを意識して制作を行い、提供番組を中心に放映しています。



## 販売促進

日頃のご愛顧に感謝して、定期的に各種キャンペーンを実施しています。また、製品の品質を認識していただくために、店頭でのプロモーションなどを実施しています。



## スポンサー活動

JリーグYBCルヴァンカップにおいて「サッカーを通じて子どもたちに夢を与える」というコンセプトのもと、冠スポンサーとしてフェアで健全な大会の運営に協賛し続けています。



すべては、「世代を超えて愛され続ける製品づくり」のために。



# ひとりひとりの笑顔のために。

企業と社会は密接に関係しています。社会の豊かさの向上に貢献することは、事業活動を行う者の責務であり、ここに私たちがスポーツをはじめとした文化を支援する意義があります。また、世界各地で発生する多くの大規模災害に対する緊急・復興支援活動を応援しています。今後も、同じ地球に住む一員として、事業活動を通じた社会貢献活動を行ってまいります。

## Jリーグ YBCルヴァンカップ



©J.LEAGUE

1992年、Jリーグ開幕のいわば前哨戦として開催された、日本プロサッカー初の公式戦のスポンサーとして携って以来、長年、スポーツ文化の振興に努めてまいりました。

ドラマチックでアグレッシブな試合展開はリーグカップ戦ならではの。

2018年にはタイトルマークのカラー変更に加え、決勝トーナメントの呼称をこれまでの「ノックアウトステージ」から「プライムステージ」とし、新たにスタートを切りました。

今後も、リーグカップ戦のスポンサー活動を通じて、スポーツ文化のさらなる発展と成長を積極的に支援し続けます。

## パラ／IDノルディックスキー



1999年より、パラノルディックスキーチームを支援しています。

スノースポーツは真っ白な雪世界で大自然を満喫しつつ、滑走をコントロールするための雪とパワーとのコミュニケーションといった無限の楽しさを味わうことができます。

そんなスノースポーツの楽しさを広める活動を通して、障がい者の社会参加を促進し、活力のある共生社会の創造に貢献すべく、障がい者スノースポーツのさらなる発展と成長を積極的に支援し続けています。

## 東京交響楽団



©T.Tairadate/TSO

「文化の発展と次世代の成長、共生社会の実現」を願い、日本を代表する芸術文化団体として、一流指揮者やソリストの招聘など演奏会の充実はもとより、次世代を担う子供たちの育成や地域の活動など、幅広い演奏活動を通じて、音楽文化の向上を目指すとともに音楽により豊かな社会を作り上げる、という東京交響楽団の理念に賛同し、その活動を応援しています。



1990年に設立された公益財団法人国際開発救援財団（略称FIDR）に、法人賛助会員として協力。FIDRは、開発途上国において、子どもたちが健やかに育つことのできる社会をつくるため、医療・保健衛生・教育・農業・収入向上など、幅広い分野にわたる、現地に根差したプロジェクトを実施しています。

また、東日本大震災、能登半島地震、ベトナムでの台風被害など、国内外で発生した大規模災害への緊急援助・復興支援を展開しています。

当社は、開発途上国の自立と発展ならびに災害に見舞われた地域の早期復興を願い、これからもFIDRの活動を応援してまいります。